

平成29年度
事業計画書

新潟市南区社会福祉協議会

平成29年度 南区社協事業計画

【基本方針】

地域包括ケアシステムの構築に向け、生活支援・介護予防サービスの充実を目指し、支え合いのしくみづくり会議（協議体）とともに事業の周知や啓発、社会資源の把握や発掘を行い、地域住民や各種団体等に求められるサービスの創出を目指し、高参加で高福祉のまちづくりを推進します。

また、新潟市社会福祉協議会総合計画や南区地域福祉計画・地域福祉活動計画（アクションプラン）に沿った事業を展開し、共に生きる社会（社会的包摂）を目指し、個別支援と地域支援を一体的に進めることで、地域の受容力を高め、住み慣れた南区で安心して生活できるよう、支えあいのまちづくりを進めてまいります。

【重点目標】

1. 地域包括ケアシステム構築

①第1層支えあいのしくみづくり会議（協議体）の受託と事業の推進

- ・生活支援体制整備の必要性の更なる周知と社会資源の把握、発掘に努めます。
- ・地域福祉活動計画にある地区の課題解決に向けた取組を協議体構成団体や地区社会福祉協議会とともに進めます。
- ・住民の主体的な活動を支援するため、生活支援コーディネーター、ボランティアコーディネーターの業務連携を図ります。また、内外部の関係職員（コミュニティソーシャルワーカー、地域包括支援センター職員、地域生活センター職員等）と連携協働します。

②見守り活動の支援

- ・支えあいマップづくり等を活用し、「どのような人を見守り対象とするのか」「誰が気に掛け、声を掛けるのか」地域住民とともに考え、地域の実情に合った見守りシステムを構築します。また、住民だけでなく、その地域の事業所（福祉施設、新聞販売店、薬局、ヤクルト販売、消防等）にも協力をいただき、重層的な見守り体制の構築を目指します。
- ・認知症徘徊模擬訓練を、行政、地域包括支援センターや警察署と協働で実施し、認知症に対する理解を深め、安心して暮らせる地域づくりを推進します。

③ネットワークづくり

・地域包括ケアシステム構築に向け、地域での助け合い活動、ボランティア団体、住民参加型福祉サービス団体、ふれあいいきいきサロンや地域の茶の間等、多種多様な組織団体が集まる場づくりを進め、情報交換や交流を図ります。

④ふれあいいきいきサロン・地域の茶の間支援

・ふれあいいきいきサロンや地域の茶の間がない地域において、担当民生委員や地域包括支援センターと協働で、意識啓発や立ち上げ支援を行い、誰もが気軽に参加できる場づくりを進めます。

2. ボランティア・市民活動センターの充実

①あらゆる人の社会参加を支援（福祉教育）

・学校のみならず、地域における福祉教育の必要性を周知し、講座等を企画開催します。

②災害ボランティアセンター運営事業（協働の推進）

・行政、青年会議所、商工会、日赤等との定例会を引き続き実施し、平時から協働できる関係づくりに努めるとともに、災害ボランティアセンター運営の訓練を実施し、連携や互いの役割の知識を深めます。

【新規事業】

- ・見守り活動支援（認知症徘徊模擬訓練の実施）
- ・ボランティア・サロン交流会事業

【拡充事業】

- ・地域の見守り推進（回覧板の作成、配布）
- ・社会人向け福祉教育の実施